



## 6 下水道施設の計画的管理

### (1) 取組内容

#### ① 管路施設の改築・修繕（実施主体：市）

茅ヶ崎市の南部に位置する合流式下水道区域は、管路施設の事業着手が最も早かった区域であり、建設から40年以上経過した管路施設が多く存在します。国によると一般的に建設から40年以上になると道路陥没が急増するとも言われており、交通障害による日常生活への影響等を未然に防ぐためにも、優先的に改築・修繕を行う必要がある区域といえます。

そのため、維持管理計画に基づく短期（早期）計画では、合流式下水道区域の中でも布設年度が古い地区を対象として改築・修繕に関する事業を実施しています。また、合流式下水道区域においては地震対策事業も並行して行っているため、相互に調整を図りながら改築・修繕を実施していきます。

なお、短期計画の事業期間終了後は、中長期計画に位置付けられた区域において点検・調査を行い、経年劣化が著しい管路を対象に改築・修繕を行う方針です。

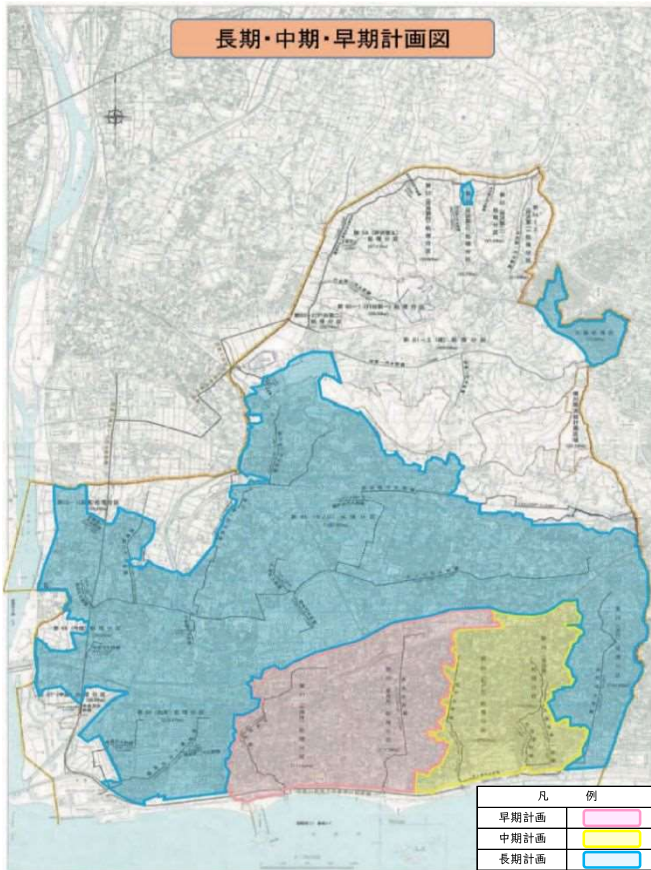


図 4.11 長期・中期・早期計画図



市民の皆様の生活へ影響がないように、安全に充分注意して工事をを行います。



写真 4.4 管路施設改築の様子

出典：茅ヶ崎市公共下水道施設維持管理計画

## ② ポンプ施設等の改築・修繕（実施主体：市）

ポンプ施設は、雨水及び汚水を揚水（低いところから高いところへ水を上げること）して、低地から雨水を河川に放流したり、深く埋設された下水道管から浅く埋設された下水道管に下水を流すための施設であり、雨水及び汚水の排除において非常に重要な施設です。

ポンプ施設が経年劣化や故障等により機能停止に陥ると、雨水の排水ができずに浸水被害が発生したり、汚水の排除ができずに滞留して公衆衛生の悪化を招く等、日常生活に大きな影響を及ぼすことが想定されます。

そのような事態を未然に防ぐために、ポンプ施設等の建設からの経過年数及び被害が発生した際に想定される影響等から優先順位（総合化点数）を設定し、改築・修繕を実施しています。総合化点数は、下水道施設の保有リスクの可視化を目的とし、事故・故障の発生確率と事故・故障が発生したときの被害規模により算出されるものです。

現在は総合化点数が高かった施設を維持管理計画に基づく短期計画対象施設として改築・修繕を進めていますが、令和6年度以降は、短期計画対象施設よりも総合化点数が低かった施設を対象に中長期計画として改築・修繕を実施していきます。なお、中長期計画の対象施設については、総合化点数に加え、日頃の点検による劣化状況等も考慮し、優先順位付けを行っていく方針です。

また、今後は再生可能エネルギー100%電気の導入を検討するとともに、改築・修繕に併せて省エネルギー対策等に積極的に取り組むことで、2050年カーボンニュートラルの実現を目指します。

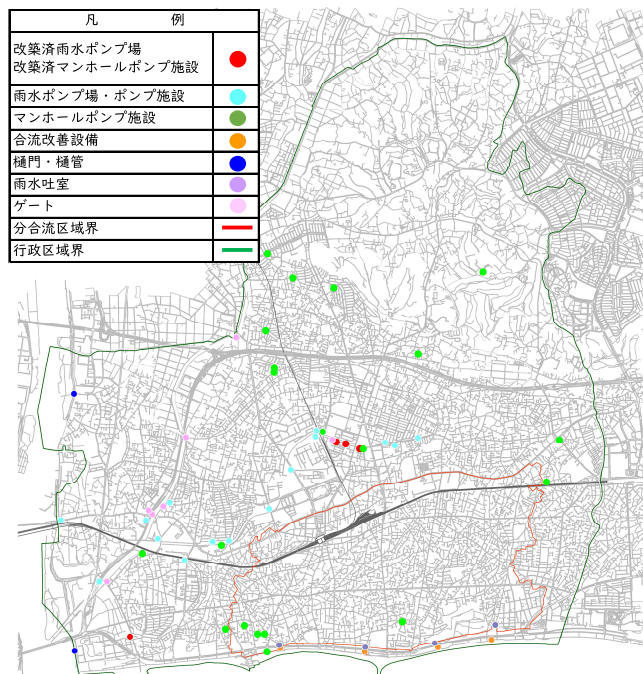


図 4.12 茅ヶ崎市のポンプ施設等位置図



写真 4.5 サザンビーマンホールポンプ



写真 4.6 中島ポンプ場

## ③ 雨天時浸入水対策の実施（実施主体：市 + 市民）

分流式下水道では、雨水と汚水を別々の下水道管で収集していることから、污水管に雨水が流入することは通常考えられませんが、雨天時において雨水が污水管に流入し、污水管や処理場への流入水量が晴天時に比べ急激に増加しているのが現状です。

雨天時に污水管に流入する雨水を雨天時浸入水と呼び、その原因としては、宅内の雨水排水設備と污水排水設備の誤接続等が考えられます。雨天時浸入水の大量流入により、污水管や処理場の施設能力を超えた場合、污水マンホールから溢れた水（溢水）による公衆衛生の悪化等や、処理場にて適切な処理ができないまま公共用水域へ放流することとなり、水質悪化等が懸念されるため、施設管理上の課題となっています。

そのため、茅ヶ崎市では雨天時浸入水が発生している区域及び原因を把握し、今後の対応方針を検討していくほか、市民の皆様にも各種情報媒体を通して、宅内の排水設備の接続状況の確認を呼び掛ける等、公衆衛生の悪化及び公共用水域の水質悪化の防止を図っていきます。

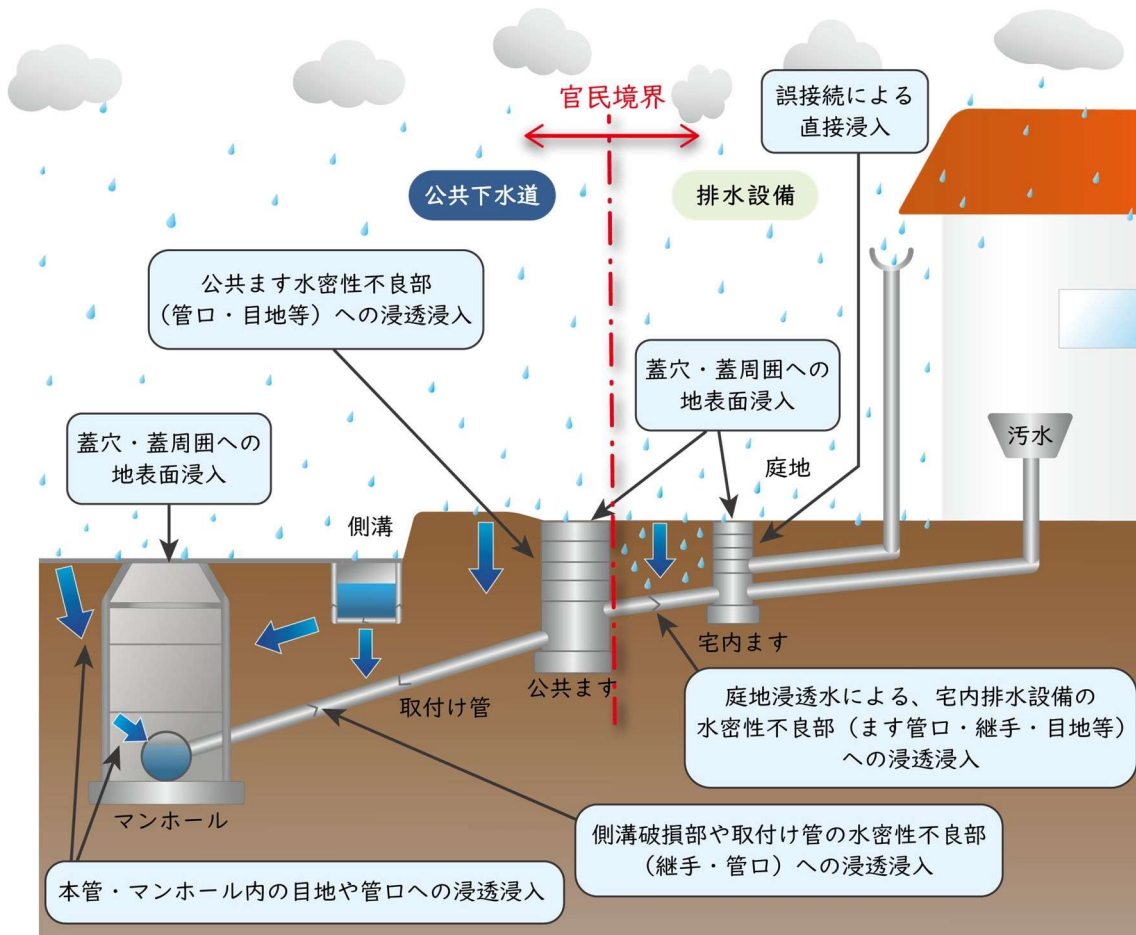


図 4.13 雨天時浸入水の浸入経路のイメージ

## (2) 取組目標

下水道施設の計画的管理における取組目標を表 4.9 に示します

表 4.9 下水道施設の計画的管理における取組目標

取組内容	取組目標	
	アウトプット	アウトカム
管路施設の改築・修繕	管路施設の改築・修繕を行い、異常がある管路施設の解消及び流下能力を確保します。	道路陥没による交通障害や下水の滞留といった、日常生活への影響を未然に防ぎ、市民の皆様の安全安心な生活を守ります。
ポンプ施設等の改築・修繕	ポンプ施設等の改築・修繕を行い、異常があるポンプ施設の解消及び揚水機能を確保します。また、再生可能エネルギー100%電気の導入及び、省エネルギー対策の検討を行います。	機能停止による浸水被害の発生や公衆衛生の悪化といった、日常生活への影響を未然に防ぎ、市民の皆様の安全安心な生活を守ります。 再生可能エネルギー100%電気の活用・省エネルギー対策により、地球温暖化対策に貢献します。
雨天時浸入水対策の実施	雨天時浸入水の発生原因等を把握したうえで対応方針を検討します。また、広報紙等の各種情報媒体を通し、宅内の排水設備の接続状況確認等と呼び掛けていきます。	雨天時浸入水による汚水マンホールからの溢水を防ぐことで、公衆衛生の悪化を防ぎ、市民の皆様の快適な生活を守ります。 また、処理場へ大量の雨天時浸入水が流入するのを防ぐことで、適切な下水処理ができないことによる公共用水域の水質悪化を防ぎ、豊かな水環境を目指します。

## (3) Q&amp;A

Q：下水道施設の改築・修繕はなぜ必要なの？

改築・修繕を行わないと、管路施設の劣化を原因とした道路陥没やポンプ場等の揚水が正常に機能しなくなり、交通障害、汚水の溢水、浸水被害等が起きてしまいます。

市民の皆様の快適かつ安全安心な生活を守るため、計画的で適切な改築・修繕を進めています。

Q：管路施設の改築は何をしているの？

対象とする区域の下水道管内に自走式テレビカメラを走らせ、管路施設の劣化状況を調査します。調査の結果、劣化が著しいと判断された箇所（区間）については、加熱により材料を形成等して特殊な樹脂で管内を覆い、その樹脂がそのまま正常な下水道管として使用できるような工事を行っています。

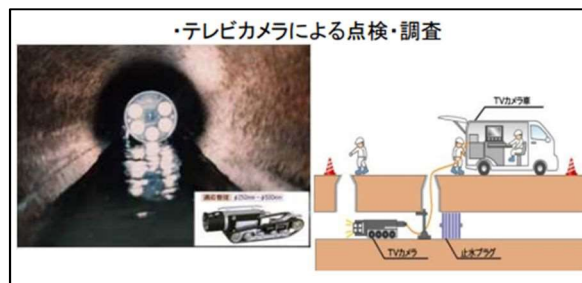


図 4.14 テレビカメラによる下水道管内調査イメージ

出典：ストックマネジメントについて（国土交通省）

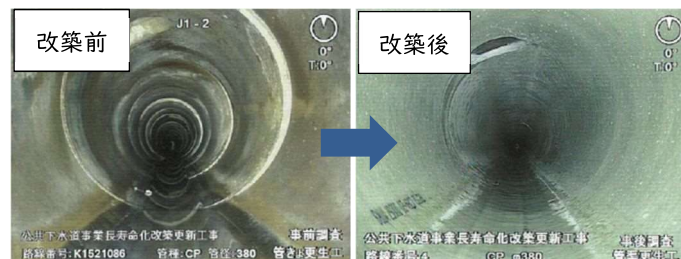


写真 4.7

下水道管の改築工事イメージ

Q：下水道施設の改築はいつまでやるの？

茅ヶ崎市が保有する下水道施設は膨大です。例えば、管路施設では約 646km（雨水管、汚水管及び合流管の合計：令和 3 年度末）保有していますが、全施設を短期に改築するのは不可能といえます。

現在、計画的に改築事業を進めています。改築を完了した施設もいずれまた劣化し、改築が必要となることから、下水道施設の改築に終わりではなく、切れ目なく継続していく必要のある事業といえます。



## 7 災害におけるソフト対策の実施

### (1) 取組内容

#### ① 下水道業務継続計画の策定及び見直し（実施主体：市）

茅ヶ崎市では、大規模災害発生時に迅速な対応を行い、災害による下水道サービスの提供レベルの低下を最小限に抑えることを目的として、令和3年度に業務継続計画を策定しました。

業務継続計画では、災害による下水道施設への被害予測や災害時における職員の行動手順を整理した非常時対応計画をはじめ、災害発生に備えた資機材の確保、民間企業等との災害協定による受援体制の確立といった事前対策計画等の各計画を整理しています。

災害に備え、業務継続計画の内容は常に最新の状態にしておくことが非常に重要となります。そのため、今後、茅ヶ崎市の実情を踏まえた定期的な計画内容の見直しをはじめ、国の業務継続計画に関するマニュアルの更新等といった社会情勢の変化があった際にも計画内容の見直しを行い、減災に努めていきます。

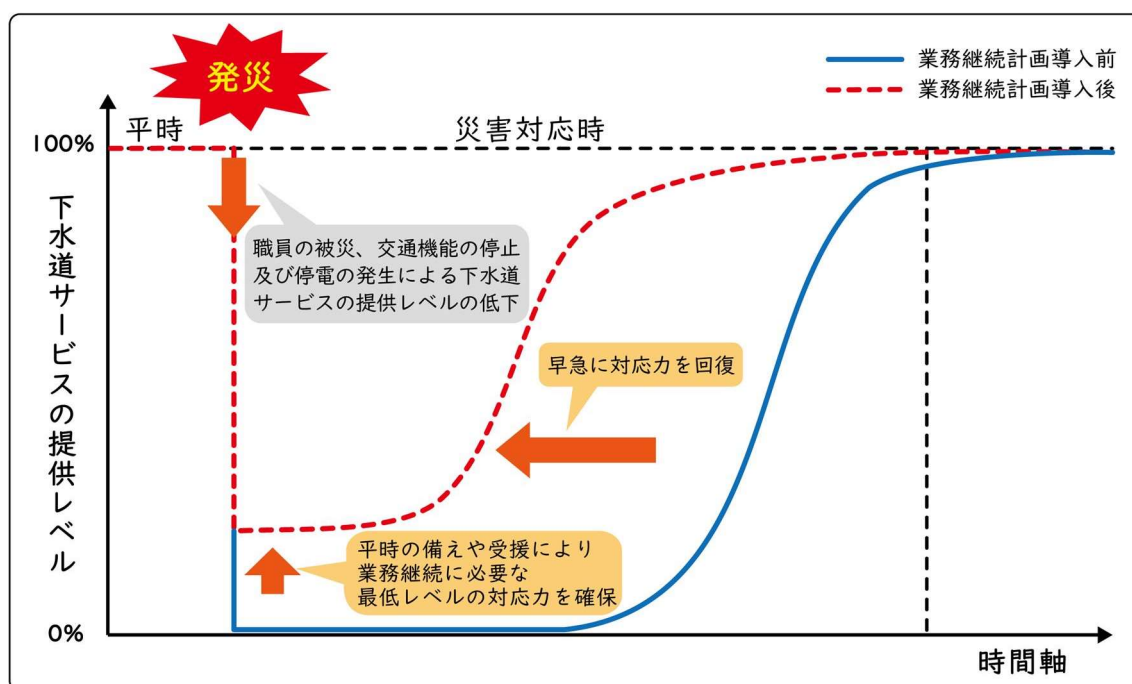


図 4.15 業務継続計画導入のイメージ

② 下水道施設の災害事前対策の実施（実施主体：市）

茅ヶ崎市では、下水道施設の日常的な維持管理に加えて、洪水警報や大雨警報が発令される等災害が予想される際には、樋門の動作確認、ろ過スクリーンの清掃等を行っています。

樋門については、河川等からの逆流を防止する設備であり、大雨により河川の水位が上昇した際に逆流による浸水から市街地を守る役割を担っています。

また、ろ過スクリーンについては、ポンプ場の流入箇所や雨水吐に設置されている設備であり、夾雑物（ごみ、木材等）を捕捉して、ポンプ場や公共水域に夾雑物が排出されないようにする設備です。ろ過スクリーンに目詰まりがあると、ポンプ場へ適切に雨水が流れず市街地において浸水する恐れや公共水域の水質へ悪影響を及ぼす可能性があります。

今後も下水道施設の本来の機能を発揮し、少しでも大雨等での被害が小さくなるように災害事前対策を実施していきます。



写真 4.8 樋門



写真 4.9 ろ過スクリーン





2) 河川ライブカメラ

短時間強雨等により河川氾濫が起きた場合、市民の皆様の生命及び財産に危険が生じる可能性があります。

そのため茅ヶ崎市では、千ノ川の状況をリアルタイムで確認できるようにライブカメラを設置しています。ライブカメラによる河川の状況はインターネットで閲覧可能となっており、避難におけるタイミングの判断及び財産を守る行動に活用していただけます。

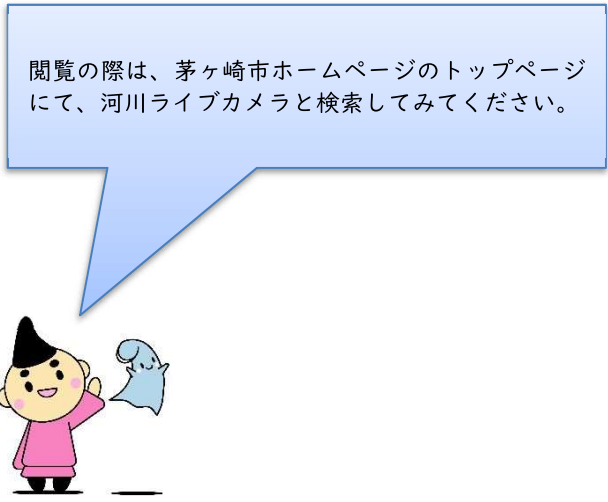


図 4.17 河川ライブカメラによる映像例

出典：茅ヶ崎市ホームページ

(2) 取組目標

災害におけるソフト対策の実施における取組目標を表 4.10 に示します

表 4.10 災害におけるソフト対策の実施における取組目標

取組内容	取組目標	
	アウトプット	アウトカム
下水道業務継続計画の策定及び見直し	業務継続計画の定期的な見直しを行い、最新の情報を整理します。	大規模災害発生時に市民の皆様の日常生活への影響及び下水道施設の被害を最小限とします。
下水道施設の災害事前対策の実施	災害に備えた下水道施設における災害事前対策を実施します。	下水道施設の本来の機能を発揮させ、災害による被害を最小限にします。
自助につながる情報提供	減災対策に関わる最新情報を発信し続けます。	大規模災害発生に備えた情報を発信することで、避難や生命、財産を守る行動に活用していただき、被害を最小限とします。

### (3) Q&A

#### Q：ハザードマップは配布してるの？

ハザードマップの策定時（改定時）に市内全戸配布を行っています。転入者等でお持ちでない方には、市役所本庁舎 1 階や防災対策課等で配布を行っています。災害に備えた事前対策にご活用ください。

#### Q：マイ・タイムラインとはどのようなものなの？

「マイ・タイムライン」は、平成 27 年 9 月に起きた関東・東北豪雨の鬼怒川の氾濫による被害を教訓に、常総市や国土交通省等が犠牲者ゼロの目標に向けて始めた取組です。

また、「マイ・タイムラインシート」とは、台風の接近によって河川の水位が上昇する時等、洪水時に自分自身がとる防災行動を時系列的に整理し、取りまとめる行動計画表です。

急な判断が迫られる洪水発生時に、自分自身の行動のチェックリスト、また判断のサポートツールとして役立ちます。ご自身の家族構成や生活環境に合った、避難に必要な情報・判断・行動を把握して「マイ・タイムラインシート」を作成してください。

#### Q：河川ライブカメラによる映像はいつ時点を確認できるの？

直近 10 分の河川の様子を 1 分毎に静止画で確認できます。また、ライブカメラ情報と合わせ、茅ヶ崎市防災気象情報のページでは、過去 10 分と 60 分の雨量情報や河川の水位情報が確認できます。

#### Q：災害に備えて何かできること、やっておくべきことはある？

ハザードマップや河川ライブカメラ等の防災情報を発信していますが、いざというときには「自分の身は自分で守る」という意識が必要です。「災害が発生した際に、自分や家族を守り、余裕を持った行動につなげる」という観点から、以下のような事前準備を行うことが有効です。

- 災害に備えて、事前に避難所を確認したり、実際に避難所までの移動ルートを歩いて確認する。
- 確認する際には、移動ルート上に危険箇所（ふたのない水路等）がないか確認する。
- 万が一に備えて、複数の移動ルートを確認する。
- 確認したことはご家族と共有するとともに、いざという時の集合場所や連絡手段についても決める。

## 8 経営基盤の強化

## (1) 取組内容

## ① 経営戦略に基づく事業経営（実施主体：市）

平成30年度に策定した経営戦略において、投資・財政計画として収益的収支※の推計を行っていますが、収益的収支は下水道事業の経営活動による収支であり、そのうち収益的支出には下水道施設の維持管理費が含まれていることから、赤字経営が続けば、将来の下水道サービスに悪影響をもたらします。

そのため、茅ヶ崎市では下水道事業の経営状況に問題点・課題がないか、また、翌年度以降の下水道経営の見通しを立てること等を目的として、モニタリング調査を毎年行っています。

今後もモニタリング調査及び定期的な見直し検討を行い、持続可能な下水道事業の経営を目指していきます。

## 1) 広域化・共同化の検討

広域化・共同化とは、主に汚水処理に関する維持管理や事務等を近隣市町村と協力して行うことで、事業全体の効率化を図ることをいいます。

「経済・財政再生計画改革工程表2017改定版」（平成29年12月決定）において、「令和4年度までの広域化・共同化を推進するための目標」が設定されたことを受けて、平成30年1月17日には、総務省・農林水産省・国土交通省・環境省の連名で「令和4年度までに都道府県単位で広域化・共同化計画を策定する」ことを要請されました。

神奈川県では令和4年度中に「広域化・共同化計画」を策定することを目的に、神奈川県内の市町村を対象に「神奈川県汚水処理事業広域化・共同化検討会」を開催し、広域化・共同化のより良い連携方策を検討しており、茅ヶ崎市も構成団体のひとつとして検討を進めています。

※ 収益的収支：当該年度の企業の経営活動で発生する収入（下水道使用料等）と、対応する支出（人件費、維持管理費等）のこと。

## 2) PPP/PFI 事業導入検討

PPP/PFI※とは、茅ヶ崎市と民間事業者が協力して下水道サービスの提供を行い、施設の建設、維持管理、運営等において、効率的な下水道事業運営を目指すものです。

これらの導入により、経費削減等を行った効率的な下水道事業の運営や民間事業者から市職員への技術継承といったメリットが得られ、今後の市民の皆様への安定的な下水道サービスの提供にもつながります。

今後、導入している市町村の取組事例の収集や国及び県が主催する研修会に参加する等して十分な情報収集を行い、茅ヶ崎市にとって本当に必要な事業であるかどうか慎重に判断していきます。

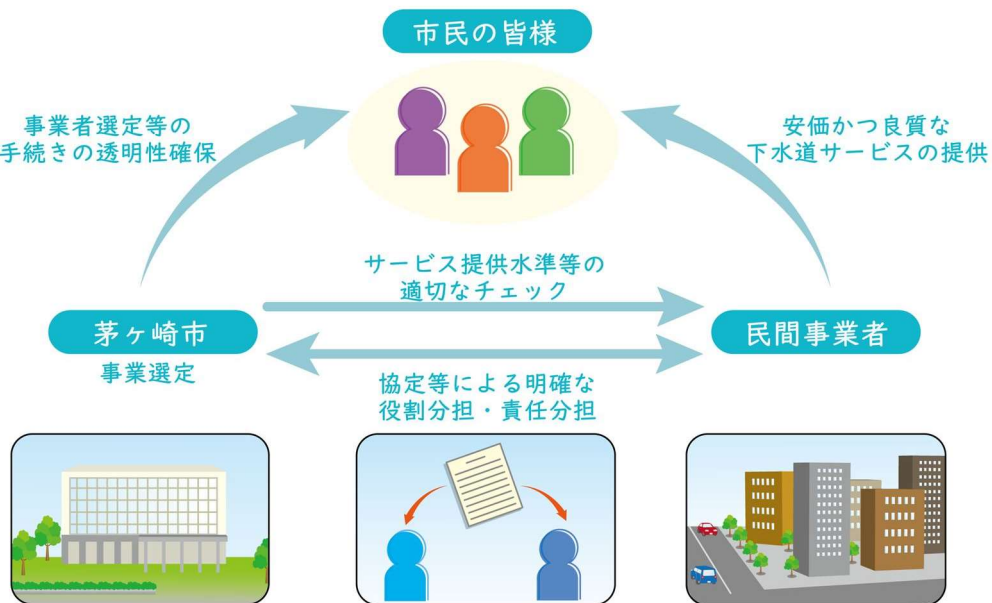


図 4.18 PPP/PFI 事業導入のイメージ

※ PPP/PFI : Public Private Partnership 及び Private Finance Initiative の略であり、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法。

## 3) 計画的な人材育成・技術継承

全国的に下水道事業に従事する職員が減少していますが、そのような状況で、今後も市民の皆様へ安全・安心な下水道サービスを提供するには、職員一人ひとりの技術力の向上や経験豊富な職員から若手職員への技術継承が必要不可欠となります。

茅ヶ崎市では、これまで国及び県が主催する研修会等に積極的に参加するとともに、OJTとよばれる職場内訓練で業務を実践しながら若手職員への技術継承を進めてきました。今後はオンライン研修も活用する等、持続的な下水道サービス提供のため、職員育成に努めていきます。

## ② DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進（実施主体：市）

DXとは、コンピューター及びネットワークに関連する技術・設備等が世の中に広まることにより、人々の生活をより良く変化させることを示します。

下水道事業においては、整備済の下水道施設基礎情報に加えて、維持管理情報等もビッグデータ化（デジタル化）することで、その後の改築・修繕の計画立案に活かせる等、ビッグデータが事業と相互に関連することにより、効果的で効率的な事業運営が可能となります。

「浸水対策の実施」、「下水道施設の計画的管理」等の取組により得られた情報もビッグデータとして一元管理し、効率的な下水道事業運営に活用していきます。

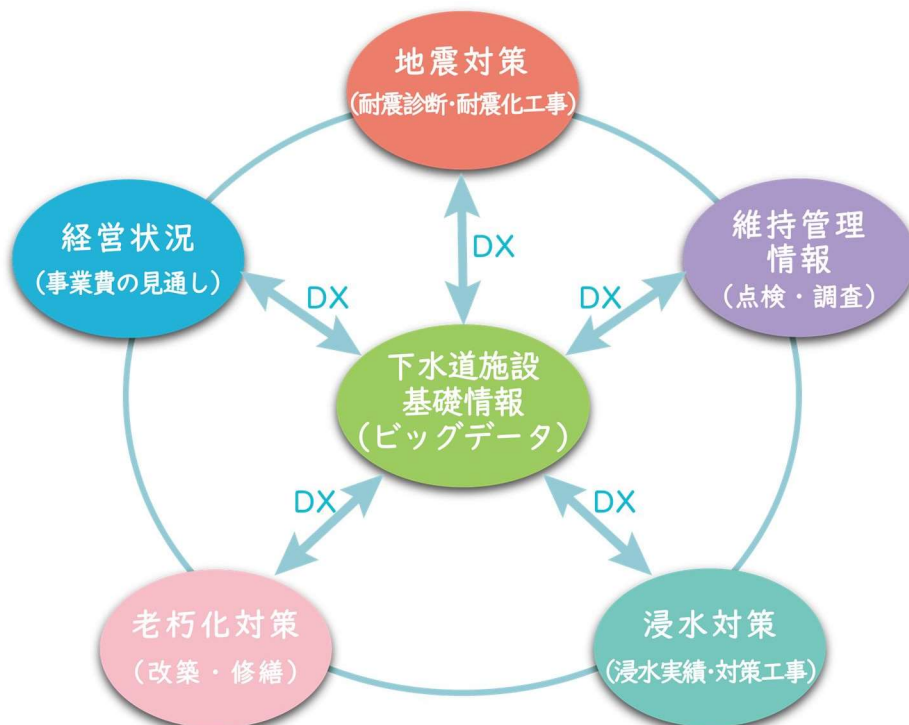


図 4.19 DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進イメージ

## (2) 取組目標

経営基盤の強化における取組目標及びスケジュールを表 4.11 に示します。

表 4.11 経営基盤の強化における取組目標

取組内容	取組目標	
	アウトプット	アウトカム
経営戦略に基づく事業経営	毎年度のモニタリング調査により下水道事業の経営状況を分析・評価し、本ビジョン期間中の黒字を継続するとともに持続可能な下水道事業経営を目指します。	持続的、かつ安定した下水道事業の経営となり、市民の皆様への安全安心な下水道サービスの提供につながります。
DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進	整備済の下水道施設基礎情報、維持管理情報等をビッグデータ化（デジタル化）し一元管理します。	ビッグデータと事業を相互に関連させることにより、効果的で効率的な事業運営が可能となり、事業費の削減につながります。

### (3) Q&A

#### Q：なぜ下水道使用料はかかるの？

下水道事業には、「雨水公費・汚水私費」の原則があります。雨水処理については、特定の誰かが負担すべきものではないため、皆様の税金で負担し、汚水処理については、汚水を下水道管に流している下水道使用者に使用料というかたちで負担していただいているため、下水道使用料がかかってきます。

なお、下水道使用料は、下水道施設の維持管理や柳島水再生センター（処理場）の稼働等に使われています。

#### Q：下水道使用料は値上げするの？

現在のところ改定（値上げ）する予定はありませんが、毎年度の決算値を基に経営状況の見通しを立てるモニタリング調査を行っており、モニタリングの結果、将来の下水道事業の運営が困難であると予想された場合、改定を検討します。

#### Q：下水道事業経営の赤字が続いた場合、日常生活に影響は出るの？

下水道施設の維持管理費は、下水道施設の維持・修繕による道路陥没事故の未然防止等に使われています。赤字経営が続くと維持管理費も抑制せざるを得なくなるため、下水道サービスの低下につながり、最終的に市民の皆様の日常生活に影響が出る恐れがあります。

このような状況を招かないためにも、経営戦略に基づく事業経営を行っています。

#### Q：経営戦略のモニタリング調査はどのような調査なの？

経営戦略において、下水道使用料の年間の収入見込値等を算出していますが、この推計値に対して、決算値（実績）がどうだったかの比較をしています。

主には、汚水処理の根幹的な収入となる「下水道使用料」、事業の黒字赤字に関わる「当期純利益（当期純損失）」や「経常収支比率」、汚水処理にかかる費用を下水道使用料でどれくらいまかなえているかを確認する「経費回収率」等の比較を行っています。

また、事業運営において、下水道使用料の増減が黒字赤字を大きく左右することから、毎年度のモニタリング調査において、「人口」や「普及率」等を見直し、経営戦略策定時の推計値から、より実態に合った推計値に見直す作業も併せて行っています。

9 広報事業の充実

(1) 取組内容

① 市民の皆様への情報発信（実施主体：市）

下水道の役割の大切さや下水処理の仕組み等を市民の皆様にお伝えすることを目的として、広報紙の特集号「下水道だより」を発行しています。

「下水道だより」では、市民の皆様が衛生的で安全安心な生活を送っていただくために、公共下水道への接続に関するお知らせや水害を防ぐために行える身近な取組等の情報を掲載していますが、今後も通常の広報紙や茅ヶ崎市ホームページ等も活用し、下水道事業に関する様々な情報を発信していきます。



図 4.20 下水道だより



「下水道だより」は茅ヶ崎市ホームページでも公表しています。ぜひ一度ご覧ください。



② 下水道への理解を深めるきっかけづくり（実施主体：市 + 市民）

茅ヶ崎市、神奈川県及び関係機関である神奈川県下水道公社では、下水道への理解をさらに深めてもらうことを目的として、各種イベント、デザインマンホールの活用等を行っています。今後も茅ヶ崎市では、市民の皆様を楽しみながら下水道への理解を深めていただけるような企画を検討していきます。

1) 下水道ふれあいまつり

神奈川県及び神奈川県下水道公社では、下水道の役割や下水道整備の重要性等について理解を深めてもらうため、毎年「下水道ふれあいまつり」を開催しており、2年に1度は茅ヶ崎市の下水処理を行っている柳島水再生センター（柳島しおさい公園）で開催されています。

柳島水再生センターの施設見学や、ゲームコーナー・模擬店が出店されるなか、茅ヶ崎市でもブースを出展し、下水道の仕組みや排水設備に関するクイズのほかに雨水貯留タンクの普及啓発を行うなどし、市民の皆様により下水道事業への理解を深めていただけるよう取り組んでいます。



写真 4.10 下水道ふれあいまつりの様子

2) 処理場見学会等

下水処理の仕組みを多くの皆様に理解していただくために、神奈川県下水道公社では処理場見学会を開催しており、茅ヶ崎市の下水を処理している「柳島水再生センター」を見学することができます。また、処理場見学会以外にも「夏休み下水道教室」等も企画されており、下水道への理解を深めていただけます。



下水道の仕組みについて分かりやすく説明してもらえます。開催状況は神奈川県下水道公社ホームページよりご確認ください。



写真 4.11 処理場見学の様子

出典：神奈川県下水道公社ホームページ

## 3) セミナー・市民まなび講座

セミナーとは、外部講師を招き、市役所会議室で座学を行ったり、工事現場及び下水道施設にて工事等の概要説明を行うことを想定しています。内容としては、水循環の概念、雨水貯留の大切さ、及び雨水の水資源としての有効活用等を取り上げ実施していく予定です。

また、市民まなび講座とは、市職員が市民の皆様のもとに出向いて行う講座のことであり、概ね10人以上の希望者がいれば、好きな講座メニューを選び、まなびの機会としていただけます。今後は、現在受講可能な「茅ヶ崎市の水循環水環境について」以外にも市民の皆様に興味を持っていただけるような講座メニューについて検討していきます。

## 4) デザインマンホールの活用

マンホールのデザインは下水道事業の広報のため、申請により無償で使用できることとしており、ストラップやコースター等の雑貨販売等にも使用されています。

また、市民の皆様をはじめ、多くの方々に茅ヶ崎市の下水道へ興味を持っていただくことを目的として、デザインマンホールのさらなる活用として、マンホールカードを作成し、配布しています。

マンホールカードとは、企画元である下水道広報プラットフォーム(GKP)と共同で制作し、市内の公共施設等を訪れた方に「無償」で配布することで、今まで下水道に関心がなかった方にも楽しみながら下水道に興味を持ってもらえる「カード型下水道広報ツール」です。



図 4.21 マンホールカード第18弾

出典：GKP ホームページ

## ③ 経営状況の見える化（実施主体：市）

重点施策「経営基盤の強化」でも記載しましたが、茅ヶ崎市では下水道事業の経営状況に問題点・課題がないか、また、翌年度以降の下水道経営の見通しを立てること等を目的として、経営戦略の推計値と実際の決算値を比較するモニタリング調査を毎年行っており、茅ヶ崎市ホームページにも公表しています。

下水道事業の経営にあたり、今後もモニタリング調査を行い、経営状況の見える化を図っていきます。

## (2) 取組目標

広報事業の充実における取組目標及びスケジュールを表 4.12 に示します。

表 4.12 広報事業の充実における取組目標

取組内容	取組目標	
	アウトプット	アウトカム
市民の皆様への情報発信	広報ちがさきへの掲載、「下水道だより」の発行等により、下水道に関する情報を市民の皆様へ発信し続けます。	市民の皆様が茅ヶ崎市の下水道事業に対し、ご理解・共感いただくことで、持続可能な下水道事業の運営につながります。
下水道への理解を深めるきっかけづくり	屋外でのイベント、下水道施設の見学会等の実施及びデザインマンホールの活用により、市民の皆様が下水道の理解を深めていただく機会を提供します。	
経営状況の見える化	毎年のモニタリング調査を行い、経営状況の見える化を行います。	

## (3) Q&amp;A

Q：「下水道だより」はどこでもらえるの？

広報ちがさきに折り込み、市民の皆様配布しています。また、茅ヶ崎市ホームページでは、過去の分を含め閲覧できるので、ぜひご覧になってみてください。

Q：下水道ふれあいまつり等、イベント参加費用はかかるの？

多くの市民の皆様が下水道に興味を持っていただくことが目的のため、イベント参加費用は基本的に無料です。お気軽にお越しください。

Q：市民まなび講座を開催してほしい場合、どうしたらいいの？

茅ヶ崎市ホームページ等に掲載された「市民まなび講座」の問い合わせ先にご連絡ください。実施日時や場所等について調整させていただきます。

Q：デザインマンホール蓋はどこに設置してるの？

茅ヶ崎市役所周辺や茅ヶ崎駅周辺に多く設置しています。実際に歩いて、探してみてください。



Q：マンホールカードはどこでもらえるの？

茅ヶ崎市観光案内所で配布しています。